

機関誌『子供の世紀』にみる乳幼児を取り巻く育ちの環境

—1923年～1926年の広告記事に着目して—

小山 祥子

A Study of the Child Rearing Environment as reflected in Advertisements from 1923 to 1926 in the journal “The Century of the Child”

Shoko KOYAMA

論文要旨

大阪児童愛護連盟は、子どもの権利の啓蒙を目的として、大正後期から第二次世界大戦中にかけ機関誌『子供の世紀』を刊行した。内容は、子どもに関する各分野の専門家が執筆した記事、写真、広告で構成されており、当時の乳幼児を取り巻く育ちの環境を知る重要な資料となっている。

本稿では、創刊初期の1923年から1926年の広告記事に着目し、当時の乳幼児のおかれた具体的な状況の考察を試みた。結果、乳幼児の疾病に関する医薬品、栄養剤、疾病を予防する衛生商品などの広告の増加は、当時の乳児死亡率の高さを裏付ける乳幼児の発育不良や栄養不足の状況を映し出し、子どもの権利を優先する専門家らによる疾病予防記事も多く掲載されていた。また、粉ミルクの商品が最も多く掲載されていたのに対し、専門家らは母乳育児を推奨する記事を科学的根拠とともに掲載していた。これらのことから、乳幼児を取り巻く物的環境が次第に西欧化していく様子が窺え、広告の種類増加からは育児の多様化の始まりを確認することができた。

キーワード 機関紙『子供の世紀』 乳幼児 環境 乳児死亡率 子どもの権利 広告記事

1. はじめに

機関誌『子供の世紀』は、1923年5月に大阪児童愛護連盟¹⁾の機関誌『コドモ愛護』として創刊されたことから始まる大正後期から昭和初期にかけての月刊誌である。以降、1944年4月まで21年間に250冊刊行されている。『子供の世紀』という名称は、1916年にエレン・ケイの『児童の世紀』が邦訳され、子どもの人権思想が日本に入って来たことが影響していたという²⁾。本誌は、それまで主体的存在として扱われていなかった子どもに対する権利を啓蒙する目的で刊行され、母子保健、保育、子育て支援、児童福祉、少年非行、学校教育、障がい児教育、児童心理、児童精神医学、児童文化、

児童文学、児童絵画、児童演劇、ジェンダー、子育て民俗学など多岐にわたる領域からの記事が掲載された子ども総合情報誌である。今となっては、当時の子どもに関する貴重な資料となっている。

本機関誌は、一部所在が明らかになっていないものもあるが、現在確認されている223冊は復刻版として刊行されている。掲載記事は、医師や研究者をはじめ、子育てにかかわる専門家や実践者、中には政治家や行政官等により執筆されており、時に海外の情報や各種調査結果も含まれ、当時の乳幼児を取り巻く育ちの社会的環境を概観することができる。そのため、本誌を研究対象として、上丈一郎³⁾、森田靖男⁴⁾、

堀田謙⁵⁾、和田典子⁶⁾、菊池義昭、内田塔子⁷⁾らが、それぞれの専門分野から先駆的研究を行っている。

本誌刊行の時代的背景としては、国内的には大正期の民主化、国際的には戦争へと向かう不安定な時代であった。混沌とする社会情勢の中で、乳幼児がどのように生きていたのか、特に乳幼児死亡率をみるとその生きづらさが明確になる。1899年の乳幼児死亡率は15.38%（2015年は0.19%）、同年新生児死亡率7.79%（2015年は0.09%）⁸⁾であったことを鑑みると、乳幼児の権利を保護する役割のある機関誌としては、何らかのメッセージが込められ、当時の状況を概観できるものと思われる。

2. 研究の目的と方法

そこで本稿では、まだ明らかにされていない本機関誌の掲載広告記事に着目し、その内容を精査することで、まずは、当時の乳幼児の成長発達にまつわる生活環境を検証し、そこから当時の人々の育児観をも考察することが可能ではないかとの仮定も含んで総合的に考察することを目的とする

広告収集と記事検証にあたっては、復刻版『子供の世紀』第1集（六花出版、2015年12月10日発行）を用い、1923年7月から1926年5月までの間に刊行された10冊を研究対象とする。

研究方法は、本機関誌刊行の社会的役割を理解するために、まずは発行元である大阪愛児愛護連盟の役割を明らかにした上で、執筆記事から乳幼児の育ちに関する記事を任意に抽出し検証する。そして、広告記事を発行季節に考慮して号数を選定し、1冊に掲載された広告記事全てを検証し、これらの結果から当時の乳幼児のおかれた育ちの環境を考察していく。

尚、機関誌に使用されている旧字体は、本稿においては現代当用漢字で表記することとした。

3. 結果

1) 『子供の世紀』刊行の役割

刊行元である大阪児童愛護連盟の設立過程は、菊池（2015）が明らかにしている。それによれば、設立の前提として、障がい児教育で自ら治療教育院を開設した三田谷啓の功績がある。そこに、医師らが加わって設立された日本児童協会による児童の保健・衛生・教育に関する研究と講演活動、また、大阪市による児童衛生博覧会の開催や、乳児院と市民会館の開設が相まって「コドモ宣伝デー」が実施されたことに端を発している。このイベントは、のちに「こども愛護宣伝デー」として他市にも広がり、大阪市民会館での大阪市、京都市、神戸市、堺市の四市による協議が起点となって、大阪児童愛護連盟が設立されていったという⁹⁾。

「こども愛護宣伝デー」とは、子ども達の置かれた劣悪な環境、すなわち、非衛生や不道德、また子どもの自由と権利が束縛された状況が放任されていることを危惧し、「強い子を生み、その子賢く且善良に育てることは今日急務中の急務」¹⁰⁾として開催された。児童の福祉について、家庭と学校と社会が責任を果たすよう宣伝カーを走らせたり、ピラを配布したり、子どものためのお話会や児童問題講演会を開催、各新聞には論説や特別広告を掲載する等して啓蒙活動を行っている。これらの活動の一環として、『子供の世紀』は子どもの権利を啓蒙していく役割を担っていった。

2) 乳幼児の育ちに関する執筆記事

次に、乳幼児を取り巻く劣悪な環境、特に育ちづらさを健康に関する記事から、当時の健康認識と啓蒙内容を検証する。(1)から(8)の項目は、記事のタイトルである。

① 育児と「カリシウム」問題（1923年7月）

医学博士 片瀬淡

片瀬氏は、日常的に大人も子どももカリシウムが不足していることを指摘し、特に妊婦は胎児への供給で非常に欠乏しやすく、出産後、髪

の毛が抜ける赤ん坊はカリシウムが不足していることを述べている。カリシウムが不足していると思われる子どもの症状には、壁土をよく食べたり、指先に灰をつけて舐めたりすることが見られ、顔色も青白く、小柄で癩が強いことを自身の研究結果として伝えている。

②農村の児童問題（1923年8月）日本農民組合長 杉山元次郎

まず冒頭で、「我国の農村を振興せしむる善後策は、農村に於ける乳児死亡率の減退を量ることである」と述べている。この時の農村の乳児死亡率は、千人に対し平均167人、大阪府下では255人にも上っており、その原因に両親の無知、衛生の不備があるが、第一に経済上の窮迫が大きいとしている。記事には山口県吉屋郡平川村で調査した献立表と小作人の収支が掲載されている。それによれば、朝昼夜6日間の18回の食事のうち、漬物のみが14回、大根煮物のみが3回、梅干しのみが1回という結果で、これでは母親の栄養も不足し子どもが丈夫に育つはずはないとしている。また、乳幼児が不慮の事故で死亡するのは農繁期に最も多く、子守りが十分にできないほど働かなければならない現状があること、それに比べて都会では託児所があることを取り上げ、農村と都会の職業婦人への国家の公平な保護を訴えている。

③恐ろしい乳児脚気とその注意（1923年8月）大阪市立乳児院長 三野裕

三野氏は、母親が脚気であると、母乳を通して乳児も脚気になる場合があるが、その判断を勝手に行って断乳し、人工乳に変えてしまうことに警鐘を鳴らしている。出生後間もない乳児に、人工乳のコンデンスミルクやラクトゲンを与えることで、「消化不良症に陥り骨と皮になって死亡することもある」ので、必ず専門医の診断で対処するよう訴えている。多少過激な表現もあるが、それだけ、脚気症状のある母子の存在と人工乳の広がり現実が推測される。

④気候の児童死亡率に対する影響（1924年3月）京都帝国大学 飯島近次

飯島氏は、日本の気候の夏と冬における湿度と乾燥の差異について述べ、衣類と熱放散の原理を科学的に説明した上で、皮膚の調整作用が完成していない乳幼児に対し、衣類への配慮を提言している。衣類調節が不適切な乳幼児は、冬は肺炎、夏は下痢を起こし、それが乳幼児死亡率に影響しているという。記事の冒頭と最後には、それらの知識に対する母親の無知についても、事例を取り上げ間接的に述べている。

⑤乳児の為に必ず守って欲しい15か条（1925年2月）医学博士 矢野雄

矢野氏によって次のように謳われている。「一、母乳を与えよ。二、時間を決めて授乳せよ。人工栄養の場合でも母乳の時でも。三、ビタミンを十分供給するように努めよ。母乳栄養の時でも同じです。四、生後7、8か月になれば離乳の準備に取りかかれ。五、衣服は取り扱いやすいよう、しかしお腹の冷えぬようにせよ。六、衣服は毎日幾度も取り替えるように洗濯しやすいものでこしらえよ。七、おむつは足の自由を束縛せぬように三角形に作り、湿るたびに取り替える事。八、少なくとも隔日に入浴させよ、浴後はよく水気を拭い、汗粉を十分に散布せよ。九、日当たり良い明るい部屋と、汚れぬ空気とは何物よりも大切。十、部屋の温度も湿度も心配しすぎて度を越さぬよう。十一、こたつよりは湯たんぽ。十二、静粛に眠らせ、むやみに抱くな、からかうな。十三、便通は毎日あるがよい。十四、泣くのを恐れて不規則に陥るな。十五、病気になってから迷うよりも抵抗強い者になるよう、不断の注意は肝心。」

この文言からは、今も変わらぬ育児観と、今と異なる物的環境ゆえの育児観が浮かび上がっている。特に十二の「むやみに抱くな」には、西洋育児観の伝播事実が表われている。

⑥小児の健康と病気について（1925年11月）医学博士 太田孝之

太田氏は、日本の乳児死亡率の高さをオランダ、スカンジナビア、ドイツ、英国と比較し、

この時期の種々の伝染病は日本の名物と揶揄しながら、乳児にとっての不衛生な環境は社会をあげて改善していくことを提言している。乳幼児の栄養は健康の枢軸であり、第一に母乳栄養を与える事、牛乳等の人工栄養は細心の注意をもって選択することを述べている。そして、幼児期にチフスや赤痢が多く流行するのは非文化的生活のためであり、幼稚園がその媒介所となっていること、児童期に結核が流行するのも幼児期に急性伝染病にかかることに起因しているためとしている。また病気のみならず、乳児期の怪我は周囲の不注意によるものであり、子守りの者が誤って地上に落としたり、玩具を飲んで器官に引っかかったり、木のとげが破傷風の原因となったり、衣服の縫い針が体内に入り心外膜炎を生じたりする事例を取り上げ、家庭の大人に対し注意喚起を促している。

⑦恐ろしいコドモの結核（1926年1月）医学博士 酒井幹夫

酒井氏は、他の伝染病と違い医者でも気づきにくい結核罹患者を数値的に掲載している。統計上、生後1か月以内は1%であっても、6・7歳になると13.4%、13・14歳では21.3%と増加している。大阪東区の愛日小学校児童への調査では、尋常科1～3学年355名中、陽性が97名（27.3%）、陰性が258名（72.7%）、尋常科4～6学年324名中、陽性が110名（33.9%）、陰性が214名（66.0%）であったという結果を報告している。結核は、発病まで緩慢で当人には何ら苦痛がないため、平気で登校してしまう。初期のうちに気づけば、治療は可能とし、増加する子どもの結核について注意喚起を促している。

⑧歯とおもちゃ（1926年4月）児童第一保護倶楽部主事 野崎吉郎

野崎氏は、乳幼児の歯の衛生問題について、次のように述べている。「赤ん坊や幼児はとかく物を口に持っていく癖がある。これを上手に利用して練習すれば歯ブラシを使用する習慣は案ずるより早くできる」として、子どもには遊

戯として歯ブラシを玩具化して実施するのが賢明な方法であることを提案している。また、歯が生え始める頃には、むずかりヨダレが多く出て、堅いものを噛みたがるので、銀のさじのようなもの、骨製や象牙の玩具、歯ブラシの柄のような堅くて冷たいものを与えるとよいとしている。うがいの仕方も、親と一緒に面白く練習すれば上手くできるようになるので、できないからといって放置すると口内は不潔になる。さらに、歯と顎の力が発達するよう固形物を与えたり、歌をうたったり、話をしたりすることも必要であるとし、3～4歳までゴムの乳首を玩具化してもたせると歯や鼻に悪い結果をもたらすと禁じている。

3) 乳幼児の育ちに関する広告記事

ここでは、各号における記事の合間に掲載されている広告記事から、当時の乳幼児を取り巻く育ち、特に健康上の商品に着目し、検証する。検証する広告記事は、四季による環境の影響を考慮して、1923年7月号、1924年3月号、1925年11月号、1926年1月号から取り上げることとした。

(1) 1923年7月号の広告記事

広告は、1頁全紙面に掲載されており、扉に2社の広告、目次の後に5社の広告と2頁分の健康優良乳児の写真、本文中に3社、巻末に2社の広告が掲載されている。広告12社の詳細は次の表1、写真記事3枚の内容は表2のとおりである。

(2) 1924年3月号の広告記事

機関誌扉に4社の広告と啓蒙ポスター1枚、目次の後に1社の広告、本文中に4社と写真1枚、巻末に10社の広告が掲載されている。広告19社の詳細は次の表3のとおりである。啓蒙ポスターとは、「保健の道しるべ」と題し、米国結核協会が貸し出しているポスターで翻訳表示をした2色刷りのものであり、子どものための食物が表示されている。

表1 広告記事：『コドモ愛護』 1923（大正12年）7月号

	商品名（販売元）	製品名	宣伝内容・注意書き
1	こなおちち グラキソ （酪素販売株式会社）	粉ミルク	多量のビタミンと適量のカリシウムを含み、邦人の体質に適するよう諸成分を加減している。完全なる母乳代用品であり、産前産後及び一般病弱の人たちの栄養料として自信がございます
2	カテイ石鹸 （クラブ白粉本店特製品）	石鹸	顔が荒れない
3	テント （宮武テント商行）	テント	夏は楽しいテント生活、簡易な生活、趣味の生活
4	大阪三越 三越呉服店	総合商品	涼味ある御用意、薄物、夏の調度品、化粧品、避暑用品
5	コンデンスミルク 人形印ミルク・鷺印ミルク・ ネッスルミルク （ネッスル及アングロスイ ス練乳会社）	ミルク	育児用または家庭用として最良の品 何れも世界有数の乳産国の算出、製造地から毎月定期に輸入、常に新鮮優良な状態で手元に届きます
6	シッカロール （株式会社 和光堂）	皮膚塗薬品	湯上りにつけば、汗もができたり、ただれたりしません どんな真夏の暑さでも汗をはじき、涼しさを感じます
7	ワダ カルシウム錠 （和田卸助商店） （田辺元三郎商店）	錠剤	カルシウム時代を建設する 婦人 妊婦に保健上必要なのは胎児の発育を完全にし、諸々の障害を除き、分娩時に出血を抑制し安産を導く 小児 本剤が必要なことは本誌上の諸大家の発表に照らし明瞭であり、現下のカルシウム問題を解決する唯一の権威者として宣伝できます
8	ビオフェルミン （武田長兵衛商店）	錠剤	消化不良、下痢、緑便、脾腫
9	藤娘印ミルク （極東練乳株式会社）	粉ミルク	舶来ミルクと藤娘ミルクとの比較（畜産試験場）大正11年4月14日 色調、粘調度、結晶、臭味の物理的鑑定と水分、たんぱく質、脂肪、糖分の科学的分析による比較により、本品がより優れていることを証明
10	ネッスルミルクフード （ネッスル及アングロスイ ス練乳会社）	粉ミルク	過去60年の歴史を有し、育児用として最も安全な形体の牛乳加工品 発育に必要なすべての要素を加えて粉末にしたものである
11	ラクトーゲン （乾卵食料品株式会社）	粉ミルク	日進月歩の世にして来るべき時代に活躍する小国民愛児を健やかに育てることは婦人として最も重大な任務であります。母乳の不足母親の不健康による育児上の障害を除くために母乳の代用乳製品として重大な使命を帯びて生まれたのが粉末純ラクトーゲンであります。
12	クラブ煉歯磨	歯磨き剤	歯科学の理想を実現した世界的な優良歯磨き、クラブ煉歯磨のチューブ入りは、便利徳用で衛生的であります

表2 写真記事：『コドモ愛護』 1923（大正12年）7月号

	被写体	キャプション
1	両手で自分の口を大きく広げた園児2名 和装に白いエプロンを身に付けた男児と女児	大阪某幼稚園々児の口腔診査をした中の良い歯と悪い歯の代表者。120名中の調査人員中全く健全な歯の所有者は僅かに3名であって其の他は総て虫歯の保有者である。
2	相撲関取に抱かれ、笑みを浮かべる裸の乳児	大ノ川関に抱かれたる別府優良児 原陽一君（大正十一年九月二十一日生）
3	和装に白いエプロンを身に付けた男児2名と 女児2名	別府乳児審査会に於ける最優良児 星野幸男君 末友マサエ嬢 葛谷悦高君 宮崎シン子嬢

表3 広告記事：『子供の世紀』1924（大正13年）3月号

	商品名（販売元）	製品名	宣伝内容・注意書き
1	マルツ汁エキス (株式会社和光堂)	栄養剤	EXTRACT 通じの悪いお子様やお肥りになれぬお子様に唯一無二の栄養剤！！マルツ汁エキスをお薦めいたします
2	カテイ石鹸 (クラブ白粉本店特製品)	石鹸	顔の荒れぬ
3	粉乳王 デリゴールド (青木高山堂)	粉ミルク	日本人向特製 完全母乳代用 小児科大家 高洲医学博士 大久保医学博士 酒井医学士 実験 推奨 デリゴールドの二種 クサラヌミルク (脂肪少き分) ホール ミルク (脂肪多き分) 小児の体質、年齢、健康に応じて脂肪の 調節が自由に出来ます
4	舶来 人形印ミルク 清純 鷺印ミルク 健康 ネッスルミルク 経済 (ネッスル及アングロスイス練 乳会社)	皮膚塗薬品	世界各国医学大家の御推奨を誇る 育児用又は家庭用としてコンデンスミルクが御入用の場合には最良 の品 何れも世界有数の乳産国の産出に係り製造地から毎月定期に輸入 されますから常に新鮮優良なる状態にて御手許に届きます
5	大阪三越呉服店	総合商品	三越の店内は、早新流行の花盛りです 着衣大売出し ひな人形の陳列
6	整腸消化剤 ビオフェルミン	医薬品	腸疾患の予防には…ビオフェルミンは腸中の有毒素による慢性自家 中毒症を撲滅し、新陳代謝を旺盛ならしむるをもって本剤を常用 する時はよく腸疾患の発症を予防し健康を保ち得るべし 腸疾患の治療には…美尾毛流民の腸内制腐、整腸、消化、保健の 諸作用は、あらゆる腸疾患に対して優秀なる治療効果を営み沃に 快癒に向かわせる
7	Mellin's Food メリンスフード (KS2)		お母様も赤ちゃんも夜分静かにお眠りなされるために、またおふ たり共、日々幸福にお暮しなされます為に、メリンスフードをお 使ください 各地の有名な洋酒食料店及び薬店にて販売しています
8	ネッスルミルクフード (ネッスル及アングロスイス練 乳会社)	粉ミルク	母乳代用大人衛生 粉みるくに優る 乳食 見本進呈、本誌広告による 旨お申し添えの方に進呈す 名誉の賞碑は我社製品の優良を証す
9	ゼネラル毛糸 (ゼネラル毛糸店)	毛糸	一家団樂 お婆さんの為にゼネラル毛糸で お兄さんの為にゼネ ラル毛糸で御主人の為にゼネラル毛糸で 編針持つ家はいつも ニコニコ 親切で安い
10	ワダカルシウム (和田卸助商店) (田邊元三郎商店)	錠剤	カルシウム時代を建設する 婦人 妊婦に保健上必要なのは胎児の發育を完全にし、諸々の障 害を除き、分娩時に出血を抑制し安産を導く 小児 本剤が必要なのは本誌上の諸大家の發表に照らし明瞭で あり、現下のカルシウム問題を解決する唯一の權威者として宣 伝できる
11	木炭 (村井商店木炭部)	木炭	通信販売開始 産地直売 日向・土佐・熊野
12	内外国書雑誌 (明文堂書店 森田勝太郎)	本・雑誌	文芸、宗教、哲学、経済、教育 その他諸般の新刊物及び雑誌類 のご注文に応ず
13	オイン 小児専用解熱新薬 (丹平商会薬房)	医薬品	小児ある家庭には是非備えよ 七才以下の子供のかぜねつ良薬
14	眼科 有澤病院	病院	院長 医学博士 有澤潤
15	松岡病院	病院	医学博士 松岡道治 奇形矯正科 傷害外科 小児外科 外科一般 レントゲン科
16	ドライコ (日本総代理店 武田長兵衛商 店)	粉ミルク	育児用として特製せられたる最も完全な粉ミルクご愛用を願ひあ げます！ ドライコは世界的著名な米国ドライミルクコンパニーで乳児用と して特製した純良乾燥牛乳であります。米国や独逸で厳密なる医 学的試験の結果「ドライコは育児用粉末ミルクとして理想的のも のである」との定評を受けて居ります。
17	藤娘ミルク (製造元 極東練乳株式会社) (一手販売 三井物産株式会社) (販売元 武田長兵衛商店)	粉ミルク	人工栄養界の權威 農商務省畜産試験場における舶来ミルクと藤娘ミルクとの比較試 験分析及び鑑定の概評によれば(中略)外国製品に比し決して劣 るものに非ざること貴社製品についてあることを得べし
18	ラクトーゲン (乾卵食料品株式会社)	粉ミルク	日進月歩の世にして来るべき時代に活躍する小国民愛児を健やか に育てることは婦人として最も重大な任務であります。母乳の不 足母親の不健康による育児上の障碍を除くために母乳の代用乳製 品として重大な使命を帯びて生まれたのが粉末純乳ラクトーゲン であります
19	クラブ煉歯磨	歯磨き剤	歯牙の保健に 歯科医学者の推薦する模範的歯磨 口に爽快 歯に有効

(3) 1925年11月号の広告記事

機関誌扉に2社の広告、目次の後に10社の
 広告と写真5枚、本文中に2社の広告、巻末に

6社の広告が掲載されている。広告18社の詳
 細は次の表4、写真は表5のとおりである。

表4 広告記事：『子供の世紀』1925（大正14年）11月号

	商品名（販売元）	製品名	宣伝内容・注意書き
1	クラブ煉歯磨	歯磨き剤	耐久力三倍以上のクラブ歯磨子 歯は強くなり口は爽やかになる
2	ヒシ印ミルク (株式会社祭原商店)	ミルク	医家が認めて最良なり！ 育児食料にはこれこれ斯様の資格が ぞひ必要といわれる条件全部を十二分に充たしているよいミルク
3	ライオン歯磨	歯磨き剤	新製九缶入り 粉製 体裁が優美で現代的。容量が豊富で経済的。 且つ香気の保存が完全ですから、ご家庭用としても、ご旅行用としても、至極ご重宝でございます
4	大阪三越呉服店	総合商品	お母様！お急ぎのお仕事は？…とお尋ねいたしましたら冬のお 仕度…とおっしゃいました。明日は三越…へ一緒に買い物に 行きます。—冬子の日記より—
5	ネッスルミルクフード	ミルク	育児の要訣は 適当な時期に適当な栄養品を与える事でありま す。母乳代用品といえは一概に牛乳やコナミルクのみで、総て の月例の嬰兒を養育するは大きな誤りであります。生後四・五 か月以後に於いて純乳成分以外に適量の穀類分を補給すること は現代の学説に最も合致する育児法であります。ネッスルミ ルクフードは純牛乳を配し、この目的に完全に適う栄養品で あります。故に、育児に忠実なお母様方には必ず本品をご利用な さいませ。まだご使用なき方には見本を進呈致します
6	大阪高島屋	総合商品	霜月の高島屋 秋くる頃、山に探るは紅葉、狩るは茸、行楽は 今あなたの方にかぎりなきよるこびの手を挙げております。 高島屋は秋の自然にふさわしき店内の装い清く、くるべき冬の 日の御仕度にあらゆる準備を整えております。郊外に自然の錦 を探る皆様には人工の錦を高島屋にお求めください。呉服、雑貨、 日用品とどりに新しい流行品を取り揃えてご来遊をお待ち申 上げております
7	藤娘印ミルク (製造元 極東練乳株式会社) (一手販売 三井物産株式会社) (販売元 武田長兵衛商店)		表3-17に同じ
8	KLIM POWDERED MILK クリム (輸入元 コードリエ商会) (特約店 丸善薬店)	粉ミルク	米国ニューヨーク州メレル、ソウル会社製 完全粉末全乳 クリムは生乳の総ての成分を完全に包含する粉末純乳にして消 化早く且つ栄養倍豊富なれば乳児の母乳代用品として最高級 のものなり
9	ラクトーゲン 粉末純乳 (乾卵食料品株式会社)	粉ミルク	愛の響 (以下、表3-18に同じ)
10	森永 ビスケット (森永製菓株式会社)	製菓	教養ある御家庭では 嗜好の上から保健の側から卓越せる風味 と豊富な滋養倍を有する本品が御常食品として非常に歓迎さ れています
11	化粧水 (堂島ファーマシー)	化粧品	新発売 お化粧下として日々御使用なされば 皮膚を柔らかに キメを細かく美しくして あらゆる白粉にもよく適合します また夏季は日焼けを防ぎ冬季はお顔やお手の荒れを防ぎ 諸々 の吹き出物を防ぎます
12	液状ポリタミン (株式会社武田長兵衛商店)	栄養剤	アミノ酸を主体とする補血滋養強壮剤 佳快甘味にして服用極めて容易なり 用量僅少にして栄養の価 値大なり 滋養・強壮・補血の効果を同時に発揮する
13	ビオフェルミン (販売元 株式会社武田長兵衛商店) (製造元 株式会社神戸衛生実験所)	医薬品	整腸消化剤 現代治療界に應用できる整腸消化剤中最大の信望 と需要を抱えるビオフェルミンの愛用を推奨する。急性腸疾 患、下痢、消化不良、常習便秘並びに小児腸疾患の治療に確効 を奏し、常用すれば腸の機能を旺盛ならしめ栄養を佳良にし、 健康を増進する
14	呼吸器散 (本舗 丹平商会)	医薬品	朝寒、夜寒の時 日夜たんせきに苦しむ人達に適確の効験ある タンセキ改良剤。丸薬に呼吸器丸あり
15	ガラクトサン (株式会社和光堂)	栄養剤	乳児下痢止栄養剤
16	眼科 有澤病院	病院	院長 医学博士 有澤潤
17	松岡病院	病院	医学博士 松岡道治 奇形矯正科、傷害外科、小児外科、外科一般、レントゲン科
18	ワシミルク	粉ミルク	彼等の養い親 本品が日本乳児に適合する最良の証拠は過去40 年間彼等の養い親として最良の成績を上げたことです
19	仁丹の体温計 仁丹のハミガキ	医療用品	感冒を撃退する積極的手段 それは常に仁丹召して元気旺盛を 計るが第一です

表5 写真記事：『子供の世紀』1925（大正14年）11月号

	被写体	キャプション
1	東京乳幼児健康審査会（その一）診査を受ける幼児と母親、その横に見学している岡田文部大臣と説明している伊藤主事	総裁岡田文部大臣の臨場 十月十五日岡田文部大臣に芝協商会館審査会場に臨まれ熱心に乳幼児の診査を統裁された
2	東京乳幼児健康審査会（その二）体重診査を受ける乳児と母親、廣井会長	廣井会長と健やかなるある母子
3	東京乳幼児健康審査会（その三）診査を受ける数組の母子と宇上診査主任、小原博士	宇上診査主任と小原博士の総評
4	東京乳幼児健康審査会（その四） 体重計に乗る幼児と乳児を抱く母親、父親	妹がおとなしく兄は泣きかけている「お前は何尺あるか見ていただくのだよ。泣いては大臣にはなれぬ。さあ飛行機を買ってあげるよ」と言葉をかけて泣きかけている愛児をすかしなだめているあるお父さん
5	審査会に参加する多くの母子と審査員（三野院長、余田博士）	大阪赤ん坊審査会の表彰 大阪三越呉服店八階食堂に於いて

（4）1926年1月号の広告記事

機関誌扉に2社の広告、目次の後に12社の広告と写真3枚、本文中に2社の広告、巻末に

10社の広告が掲載されている。広告26社の詳細は次の表6のとおりである。

表6 広告記事：『子供の世紀』1926（大正15年）1月号

	商品名（販売元）		商品名（販売元）
1	仁丹のハミガキ 懐中薬仁丹 仁丹の体温計	14	大阪三越呉服店
2	ライオン煉歯磨	15	液状ポリタミン（株式会社武田長兵衛商店）
3	高級粉乳 金太郎 コナミルク（北海道練乳株式会社）	16	ビオフェルミン（株式会社武田長兵衛商店）
4	ライオン歯磨 丸缶入 粉製	17	天下一品最上醤油（野田醤油株式会社）
5	金線ミルク ベビー型（半缶）（極東練乳株式会社）	18	アンチピリン丸（仁丹商会）感冒と熱病に
6	ネッスルフード	19	ビスケット（森永製菓株式会社）教養ある御家庭で
7	乳カバー 乳バンド（秋岡金虎堂）	20	ガラクトサン（株式会社和光堂）乳児下痢止栄養剤
8	ヒシ印ミルク（株式会社祭原商店）	21	クマミルク サッポロミルク ウサギミルク（北海道練乳株式会社）
9	大阪高島屋呉服店	22	KLIM クリム（コードリエ商会）米国ニューヨーク州メレル 完全粉末全乳
10	ラクトーゲン	23	眼科 有澤病院
11	藤娘印ミルク	24	松岡病院
12	化粧水（堂島ファーマシー）	25	ワシミルク
13	生盛小児専門薬（生製薬剤株式会社）	26	クラブ煉歯磨

4. 考察

本機関誌における記事は、各分野の専門家が執筆したものである。科学的に立証しながら、当時の乳幼児の置かれた環境の厳しさ、特に健康面での危惧を世に伝えていることがわかる。また保護者、特に母親の育児知識の欠如を指摘する専門家もあり、本機関誌は子どもの権利を啓蒙するという使命の下、実際には日常生活における乳幼児の健康情報として読まれていたものと推測する。

この期間に発行された機関誌で顕著だったことは、当時の日本の乳幼児死亡率の異常な高さを意識した記事である。その数値を下げるためにも、結核をはじめとする伝染病予防、母乳育児推奨、歯科衛生等の清潔観念に基づく生活、衣服調整による呼吸器系疾患予防を科学的根拠から解説している。

一方、それら記事の合間に目立つのが広告記事であった。先の疾患に関する医薬品、栄養剤を始め、最も多く掲載されていたのが人工乳、粉ミルクの宣伝である。専門家が母乳を推奨しているのに反し、企業側の人工乳広告は説得力ある文句で読者の目を引く。その広告数は、本稿で検証した1923年7月号で5社、1924年3月号で6社、1925年11月号で6社、1926年1月号で8社と、時の経過とともに増加している。中には、同じ製造元が商品名を変えて販売している広告も見受けた。また、輸入粉ミルクの商品広告からは、明治維新以降に西欧から入ってくるものが人々から羨望のまなざしで関心を惹き、日本の育児文化に取り込まれていることも窺える。その一方で、母乳育児を推進する記事、人工乳への安易な切り替えを疾病との関連で熟考するよう母親に促す記事等を検証すると、ジレンマの中で乳幼児が育てられていることが推測されるのである。

乳幼児の疾病傾向に関連してか、カリシウム不足を補う栄養補助食品の広告も数を増やしている。1923年7月号では1社であったのが、1924年3月号と1925年11月号では2社に、

1926年1月は3社と増え、平行して、小児用医薬品として消化剤や整腸剤の広告も1社から5社へと増加している。病院の広告も掲載されるようになり、こうした広告の種類の多様化からは、乳幼児を取り巻く育ちの環境の多様化をも映し出しているものと思われる。

そのことは、掲載写真からも推測できる。各地で赤ちゃん審査会が開催され、優良児となった乳児の写真を健康のシンボルとして掲載している。反対に、歯科検診の結果を写真で公表し、健康児と虫歯所有児を並べて掲載している記事について、表現に対する時代的認識の差異を表現しているが、現実を映し出す両写真は、読者にとって何よりも説得力のある記事となったと思われる。

この時代、乳幼児が栄養不良や疾病と対峙しながら生きている様子が記載記事や広告、そして写真からも窺えた。

5. おわりに

1923年から1926年当時の乳幼児を取り巻く育ちの環境は、資本主義の初期発展の影で厳しい状況におかれていたことが、掲載記事から明らかになった。特に、乳幼児の健康面においては、蔓延する伝染病、家事手伝いや児童労働におかれた厳しい環境の中で、発育や栄養上の疾病に常に脅かされていたことを改めて確認した。

以上のように、復刻版『子供の世紀』の機関誌の一部の記事から、大正後期の乳幼児を取り巻く育ちの環境を検証してきたが、間接的には、日本の育児文化の中に西欧文化が取り込まれていく様子と、同時に人々の西欧文化に惹かれ、変容していく育児観を記事の内容から窺い知ることができた。

今後は、研究対象をさらに広げて、各分野から精査し、経年変化を検証していくことが課題であると考えている。

注

- 1) 大阪児童愛護連盟の設立経緯と趣旨
「コドモを強く、賢く、且つ善良に育てることは、コドモ自身のためであり、親の為であり、また国家社会の為であります。人類の希望が将来の文化達成にあるからには、一切の問題はコドモを中心として企画せられなければならない。しかるに現代においては、まだまだコドモは、あるいは看過せられ、甚だしきに至っては虐待さへせられております。よしや、その精神においては真面目にコドモのためを計るつもりでも、その方法を変えなかったり、あるいはこれを誤ったりして、却ってコドモの幸福を脅し、その発達を阻害しているものも少なからずあります。われわれは、他のあらゆる問題よりも、先ずコドモの福利を増進するために国民的動員を行わなくてはなりません。少なくともコドモの教育指導に携わる諸団体や婦人団体は、協力一致して絶えずこの目的のために進みたいものだと思います。これ本連盟をつくる所以であります。」『コドモ愛護』創刊号 大正12年6月28日刊行 1頁。
- 2) 菊池義昭 2015『復刻版 子供の世紀』第1巻 六花出版 3-10.
- 3) 上丈一郎 2003「『育児雑誌』と『子供の世紀』」『日本古書通信』第882号 10-11.
- 4) 森田靖男 1987『地に這いて一近代福祉の開拓者・志賀志那人』大阪年協会 97-120.
- 5) 堀田謙 2006「『子供の世紀』と児童愛護連盟」『都市福祉のパイオニア志賀志那人思想と実践』和泉書院 125-140.
- 6) 和田典子 2006「大阪児童愛護連盟の機関紙『子供の世紀』について—創刊・終刊を中心にした書誌事情とその位相」『近畿福祉大学紀要』第7巻第2号 187-192.
- 7) 内田塔子 2011「大正後期から昭和初期における子どもの権利保障活動萌芽に関する研究：大阪児童愛護連盟の機関紙『子供の

世紀』（第3巻第2号～第5巻第12号）を手がかりに」『ライフデザイン学研究』第7号 95-108.

- 8) <http://www.stat.go.jp/data/chouki/02.htm>
総務省統計局 2016.12.28 閲覧
- 9) 菊池義昭 前掲書 4-6.
- 10) 伊藤悌二 1926「大阪児童愛護連盟の起源及び其の発達」『子供の世紀』第4巻第6号 3-5.

参考文献

- エレン・ケイ著 小野寺信・小野寺百合子 1982『児童の世紀』富山房百科文庫.
- ヒュー・カニングム著 北本正章訳 2013『概説 子ども観の社会史』新曜社 217-253.
- 茂木潤 2014「大正後期から戦後乳幼児審査会の歴史的役割に関する研究」『大学院紀要』51 293-317.
- 太田素子・浅井幸子編 2012『保育と家庭教育の誕生 1890-1930』藤原書店.
- 鈴木正幸他編 2008『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景をみつめて』名古屋大学出版会 203-213.
- 吉田幸恵 2012「社会的養護の前史—大正期における児童保護政策の展開—」『子ども学研究論集(4) 名古屋経営短期大学』91-103.
- 吉岡真知子 2005「日本の子育て文化における子ども観—日本における子育ての習俗からみて—」『東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要』2 29-35.